
**5割の親が子どもの生成AI利用に前向きも、約6割が使わせ方に悩み
不安の理由1位「AI依存」2位「思考力低下」3位「誤情報リスク」
一方、9割弱が家庭内で話し合えていない実態
適切な距離感について、社会的ルールの整備が課題
— 子どもと生成AIの関わりに関する実態調査 —**

学習塾「花まる学習会」などを展開する花まるグループ(株式会社こうゆう、本社:埼玉県さいたま市、代表:高濱正伸)が運営する「花まる教育研究所」は、保護者268名を対象に「子どもと生成AIの関わりに関する意識調査」を実施しました。

その結果、子どもの生成AI利用に親の5割(54.3%)が前向きである一方、約半数(55.1%)が使わせ方に悩み、活用と不安の間で揺れる実態が明らかになりました。
また、使わせるか迷っている保護者は3割(32.8%)にのぼり、家庭内で十分に話し合えていない割合は9割弱(88.7%)と、判断基準が共有されていない状況が浮き彫りとなっています。
子どもの生成AI利用に対する不安としては、「AI依存」(66.4%)、「思考力低下」(63.4%)、「誤情報リスク」(54.7%)が上位に挙がりました。

なお、保護者自身の生成AI利用は83.0%に達しており、日常的に広く浸透する一方で、子どもへの活用については判断に迷いが生じている実態がうかがえます。

なお、こうした結果を受け、生成AI時代における子どもとの向き合い方をテーマとした保護者向け講演会高濱 正伸「AIによる激変の時代、最高の子育てとは」を4月16日(木)オンラインで配信予定です。アーカイブ(1か月限定)の視聴も可能です。【詳細・申込はこちら:
<https://kosodate20260416.peatix.com/view>】



子どもと生成AIの関わりに関する実態調査

**保護者の8割以上が生成AI利用も、
子どもの利用には4割以上不安
「家庭任せ」の実態浮き彫りに**

花まる教育研究所

■主な調査結果

1. 親の8割以上が生成AIを利用、日常的な活用が進む
2. 子どもの生成AI利用に5割(54.3%)が積極的、一方で迷う声3割(30.9%)
3. 約半数(55.1%)の親が使わせ方に悩みあり
4. 不安理由のトップ3は「AI依存」(66.4%)、「思考力低下」(63.4%)、「誤情報リスク」(54.7%)
5. 9割弱(88.7%)が家庭内で話し合っていない実態
6. 子どもの生成AI利用を把握している親は3割(26.0%)に止まる。家庭ごとに差があり、対応にばらつき
7. 子どもの生成AI利用や距離感について迷う親多数、社会的ルール整備が課題(自由記述)

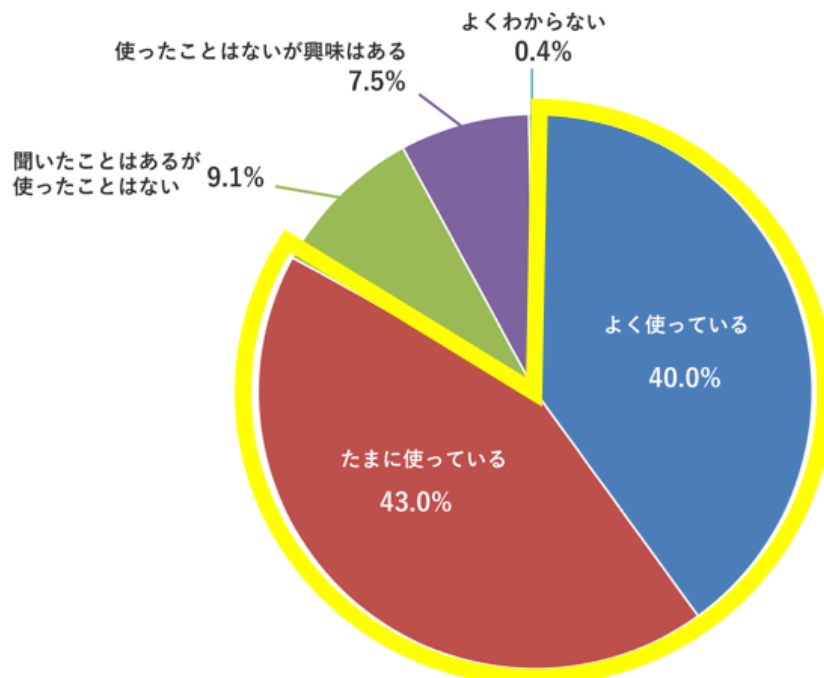
■詳細

1.保護者の8割以上が生成AIを利用、日常的な活用が進む

保護者自身の生成AI利用について聞いたところ、「よく使っている」(40.0%)、「たまに使っている」(43.0%)を合わせると83.0%にのぼり、8割以上の保護者が何らかの形で生成AIを活用していることが分かりました。「聞いたことはあるが使ったことはない」(9.1%)、「使ったことはないが興味はある」(7.5%)といった層も含めると、生成AIの認知と関心はほぼ全体に広がっており、日常生活への浸透が進んでいる実態がうかがえます。

あなた自身は生成AI(ChatGPTやGeminiなど)を使ったことがありますか？

回答者 265人

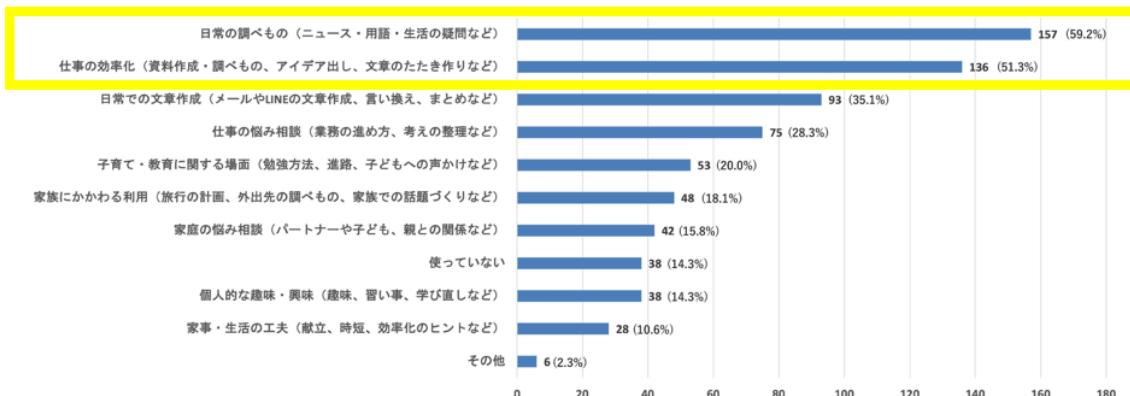


さらに、生成AIの利用場面については、「日常の調べもの」(59.2%)、「仕事の効率化」(51.3%)が上位を占め、「日常での文章作成」(35.1%)、「仕事の悩み相談」(28.3%)と続きました。一方で「子育て・教育に関する場面」での活用は20.0%にとどまっており、家庭内での子どもへの活用

はまだ限定的であることがうかがえます。用途の広がりには個人差があり、家庭ごとの活用状況にばらつきがある実態が見えてきました。

生成AIを主にどんな場面で使っていますか？(複数回答可)

回答者 265人 / のべ回答数 714件

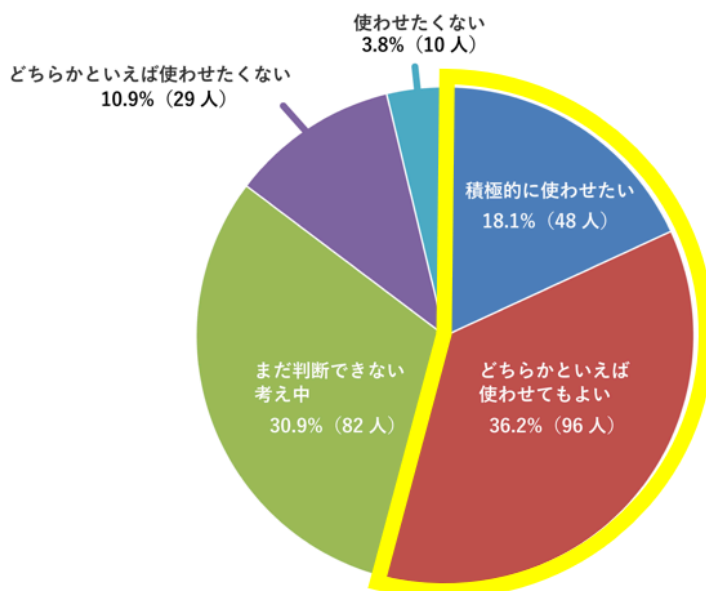


2.子どもの生成AI利用に5割(54.3%)が積極的、一方で迷う声3割(30.9%)

一方で、子どもに生成AIを使わせることについての考えを聞いたところ、「積極的に使わせたい」(18.1%)、「どちらかといえば使わせてもよい」(36.2%)を合わせると54.3%と一定の前向きな姿勢が見られるものの、「まだ判断できない・考え中」(30.9%)、「どちらかといえば使わせたくない」(10.9%)、「使わせたくない」(3.8%)と、4割以上が慎重な姿勢を示しており、判断に迷う保護者が多いことが分かりました。

子どもに生成AIを使わせることについて、いまの考えに最も近いものを選んでください

回答者 265人



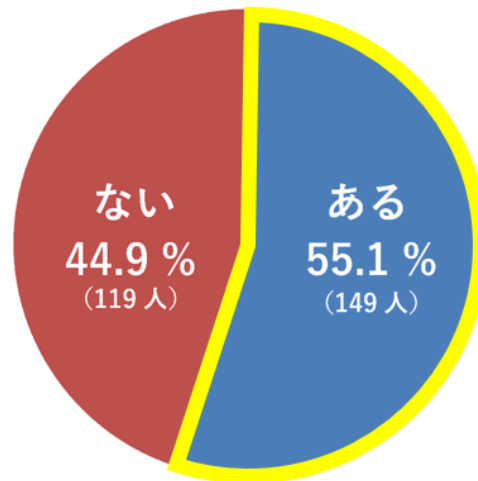
3.約半数(55.1%)の親が使わせ方に悩みあり

子どもと生成AIとのかかわり方について悩みや迷いがあるかを聞いたところ、「ある」(55.1%)と回答した保護者が過半数にのぼり、「ない」(44.9%)を上回る結果となりました。約2人に1人以上

が、子どもへの生成AIの関わり方について何らかの葛藤や不安を抱えていることが分かります。

子どもと生成AIとのかかわり方について、悩んだり迷ったりすることはありますか？

回答者 265人

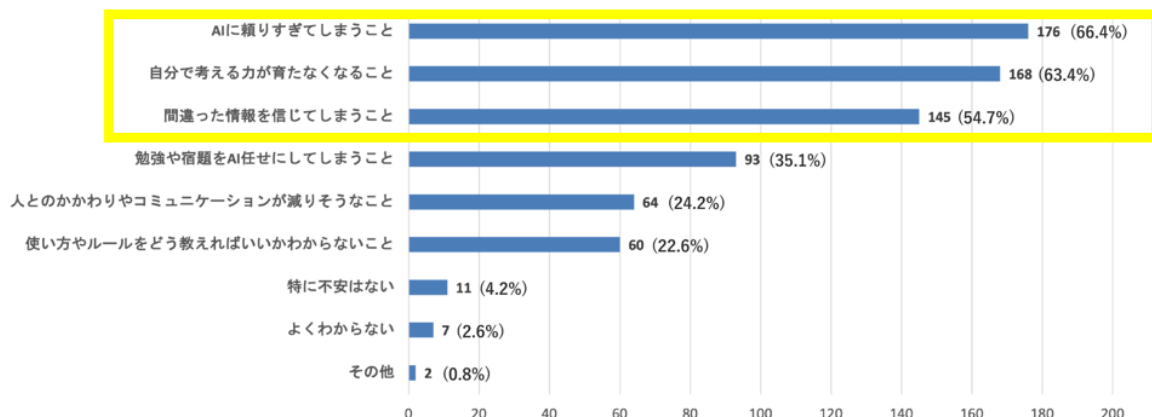


4.不安理由のトップ3は「AI依存」(66.4%)、「思考力低下」(63.4%)、「誤情報リスク」(54.7%)
子どもが生成AIを使う上での不安について聞いたところ、「AIに頼りすぎてしまうこと」(66.4%)が最も多く、次いで「自分で考える力が育たなくなること」(63.4%)、「間違っただ情報を信じてしまうこと」(54.7%)が上位に挙げられました。

そのほかにも、「勉強や宿題をAI任せにしてしまうこと」(35.1%)、「人とのかかわりやコミュニケーションが減りそうなこと」(24.2%)、「使い方やルールをどう教えればいいかわからないこと」(22.6%)といった懸念が続き、利便性への期待と同時に、依存や思考力低下、情報リテラシーへの不安が広く共有されていることが明らかになりました。

子どもが生成AIを使う上で、不安に思うことは何ですか？(複数回答可)

回答者 265人 / のべ回答数 726件

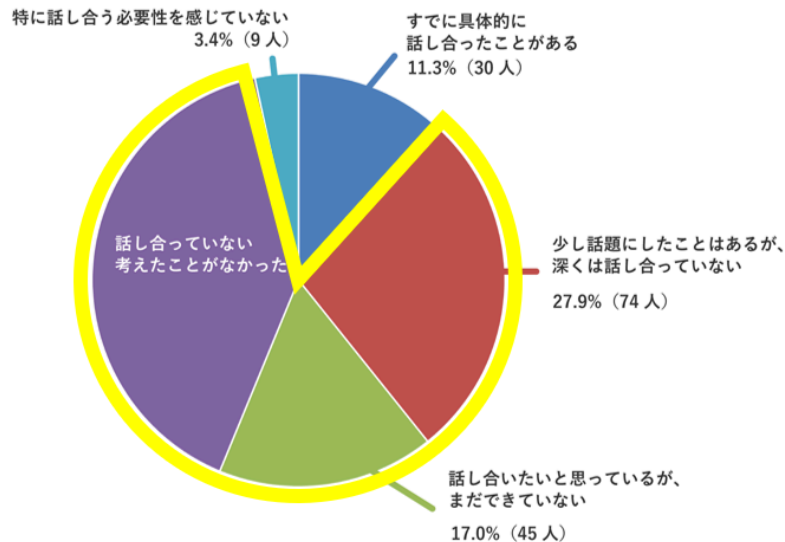


5.9割弱(88.7%)が家庭内で話し合えていない実態

子どもの生成AI利用について夫婦(パートナー)間での話し合い状況を聞いたところ、「すでに具体的に話し合ったことがある」は11.3%にとどまり、残りの約9割弱(88.7%)は、深く話し合えていない、もしくはまったく話し合えていない実態が明らかになりました。内訳としては、「少し話題にしたことはあるが、深くは話し合っていない」(27.9%)、「話し合いたいと思っているが、まだできていない」(17.0%)を合わせると44.9%にのびりました。また、「話し合っていない／考えたことがなかった」(40.4%)も最多となりました。

子どもに生成AIを使わせることについて、夫婦(パートナー)間で話し合ったことはありますか？

回答者 265人



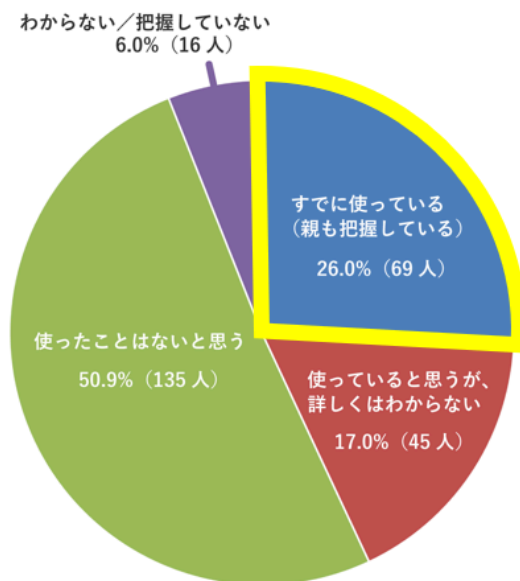
6.子どもの生成AI利用を把握している親は3割(26.0%)に止まる。家庭ごとに差があり、対応にばらつき

子どもの生成AI利用状況については、「すでに使っている(親も把握している)」(26.0%)に加え、「使っていると思うが、詳しくはわからない」(17.0%)を合わせると43.0%となり、一定数の子どもが生成AIに触れている実態が見られました。

一方で、「使ったことはないと思う」(50.9%)、「わからない／把握していない」(6.0%)も存在しており、家庭によって利用状況の把握や認識に差があることがうかがえます。

あなたのお子さまは、生成AIを使っていますか？

回答者 265人



7.子どもの生成AI利用や距離感について迷う親多数、社会的ルール整備が課題(自由記述)

- 「AIはもう避けては通れないが、まず子供たちの中に豊かな言葉を持ち、その言葉で考える力を育てたい」
- 「答えを出すのに悩む時間がなくなると、脳の働きや精神性が弱くなるのではないかと不安」
- 「上手く使いこなせていない大人も多い中、子供が利用し、自分の手や足で調べる前にこんな便利なものがあるんだと、楽な方へ進んでしまうことを非常に危険だと感じてしまいます」
- 「親自身が生成AIの活用方法がよくわかっていないので、子どもが生成AIを利用する事に批判的になってしまう」
- 「AIはもう避けては通れないが、まず子供たちの中に豊かな言葉を持ち、その言葉で考える力を育てたい」
- 「これからの時代にAI活用は不可避とは思いますが、学業が本業の子どもたちがAIと共存していくにはどうすればよいのかについてはいつも悩んでおります」

■考察(花まる教育研究所 所長 高濱 正伸)

ここ数年、教育現場や保護者の方々との対話の中で、生成AIの存在が急速に日常へ入り込んできていることを強く実感しています。今回の調査でも、保護者の約8割以上がすでに何らかの形で生成AIを利用しているという結果が出ており、大人にとっては「便利なツール」として受け入れられ始めている状況がうかがえます。一方で、その利便性を実感しているからこそ、「子どもにどこまで使わせてよいのか」という判断に迷う声が多いのも特徴的です。

実際の現場でも子どもが生成AIに触れているケースは確実に増えていますが、その関わり方は家庭によって大きく異なります。積極的に活用している家庭がある一方で、ほとんど使っていない家庭もあり、さらに「使っているかどうかよくわからない」という声も少なくありません。こうしたばらつきは、技術そのものの問題というよりも「どう向き合えばよいか」という社会的な共通認識がまだ十分に形成されていないことの表れだと感じています。

また、今回の調査では、夫婦やパートナー間でこのテーマについて十分に話し合われていない実態も明らかになりました。子どもの教育に関わる重要なテーマであるにもかかわらず、日々の忙しさの中で後回しになりやすく、結果として各家庭の中で方針が曖昧なまま進んでいるケースも多いのではないのでしょうか。

さらに注目すべきは、半数以上の保護者が子どもの生成AI利用について悩みや迷いを抱えている点です。不安の内容として、「AIに頼りすぎてしまうこと」や「自分で考える力が育たなくなること」、「誤った情報を信じてしまうこと」といった声が多く挙がっており、利便性の裏側にあるリスクを直感的に感じ取っている様子がうかがえます。これは裏を返せば、保護者が子どもの思考力や主体性を非常に大切にしている証でもあると言えるでしょう。

本来、テクノロジーは子どもの成長を支えるための道具であり、それ自体が良い・悪いと単純に判断できるものではありません。大切なのは、「使うか使わないか」ではなく、「どう使うか」という視点です。そのためにも、家庭だけで抱え込むのではなく、学校や社会全体でルールや価値観を共有しながら、子どもたちが主体的に考え、使いこなしていける環境を整えていくことが、これからの教育において重要になっていくと考えています。

■調査概要

調査実施日: 2026年2月15日～3月8日

調査対象: 花まる学習会主催高濱正伸講演会(東京都、茨城県、兵庫県)に参加した保護者

有効回答数: 268名

調査方法: インターネット調査

■花まる教育研究所について

URL: <https://www.hanamarugroup.jp/edu-lab/>

花まる教育研究所は、花まるグループが30年以上にわたり培ってきた教育実践の知見をもとに、教育・子育てを取り巻く社会課題を調査・研究し、発信していくことを目的として設立されました。現場の実態に根ざした情報発信を通じて、これからの教育や子育てのヒントを提示していきます。

所長には花まる学習会代表の高濱 正伸、研究員には数理思考教育の第一人者であり、栄光学園中学校・高等学校で20年以上にわたり思考力教育を実践してきた井本 陽久氏や、精神科医・医学博士である蟹江 絢子氏らを迎えました。

<所長 高濱 正伸 プロフィール>

1959年熊本県人吉市生まれ。県立熊本高校卒業後、東京大学へ入学。東京大学農学部卒、同大学院農学系研究科修士課程修了。1993年「花まる学習会」を設立、会員数は23年目で20,000人を超す。

花まる学習会代表、NPO法人子育て応援隊むぎぐみ理事長。算数オリンピック作問委員。

武蔵野美術大学客員教授。環太平洋大学(IPU)客員教授。日本棋院顧問。ニュース共有サービス「NewsPicks」のプロピッカー。

・花まる教育研究所メンバー



高濱 正伸
花まる学習会 代表
NPO法人子育て応援隊むぎのみ理事長



松島 伸浩
スクールFC 代表



蟹江 絢子
精神科医・医学博士



Rin 井岡 由実
花まる学習会取締役
ARTのとびらAtelier for KIDs主宰



井本 陽久
いもいも 代表



川島 慶
ワンダーファイ株式会社 代表



筑浦 健治
花まる学習会 野外体験部 部長



伊藤 潤
シグマTECH 代表



西郡 文啓
西部学習道場 代表
公教育部 部長



坂田 翔
花まる学習会 広報講演会部 部長



笹森 壮大
株式会社グランドメソッド 代表



大塚 剛史
スクールFC 教務部 副部長



相澤 樹
花まるオールインクルーシブスクール
(AIS) 事業責任者



佐藤 暢昭
NPO法人子育て応援隊むぎのみ 副理事長



喜多見 学
(株)こうゆう執行役員
NPO法人子育て応援隊むぎのみ副理事長

■株式会社こうゆう会社概要・事業一覧

思考力・非認知能力・感性を育てる『花まる学習会』と、『幸せな受験』『自学ができる子』に育てることを目指す『スクールFC』の運営を中心に、1993年から30年以上に亘り学習塾を展開しております。現在では、首都圏を中心にグループ全体で約450教室を展開しており、2024年よりキャス・キャピタル株式会社が株主に参画し、さらなる全国展開を目指し経営の強化を進めています。

◆会社概要

会社名：株式会社こうゆう（花まるグループ）

代表者：高濱 正伸

所在地：埼玉県さいたま市浦和区常盤9-19-10

設立日：1993年2月2日

事業内容：学習塾「花まる学習会」「スクールFC」の運営等

公式サイト：<https://www.hanamarugroup.jp/>

◆関連事業

・学習塾「花まる学習会」

「本質を見抜く力」「やり切る力」「人を惹きつける力」の3つの力を育てることで、将来“メシが食える大人・魅力的な人”に育てることを目的とした学習塾です。幼稚園児・小学生を対象に、毎週の授業と季節ごとの野外体験を通じて、子どもたちの学力と生きる力を伸ばしています。

URL：<https://www.hanamarugroup.jp/hanamaru/>

・野外体験 | サマースクール・雪国スクール・親子企画など

年間1万人を引率する、花まるグループ会員向けの野外体験。親元を離れての宿泊経験、自然での本気の遊び、初めて出会う子どもたちとの集団生活を通じて、子どもたちは「ミニ社会」を経験します。

URL: <https://hanamaruyagai.jp/>

・スクールFC | 「幸せな受験」を実現する進学塾

スクールFCは、花まるグループの進学塾として、一都三県で中学受験・高校受験の指導を行っています。受験はゴールではなく、その先の成長につながる大切な通過点。スクールFCでは、「やらされる勉強」ではなく、自ら進んで学ぶ“自学”の力を育てることを大切にしています。夢をかなえるだけでなく、努力する中で得られる自信や、学ぶ楽しさを味わってほしい——それが私たちの考える“幸せな受験”です。子どもたちの可能性を信じ、一人ひとりに寄り添う指導がスクールFCの強みです。

URL: <https://www.schoolfc.jp>

・スクールFC シグマTECHコース | オンラインと対面のハイブリッド型で受験合格はスクールFCの中でNo.1実績

夕ご飯をゆっくりおうちで食べる中学受験塾。週2日の通塾と個別指導によって、家庭の時間や子どもの多様な体験を大切にしながら、志望校合格を目指します。「ゆっくり夕ご飯をお家で食べて合格する」という新しい学習スタイルは、受験勉強と豊かな小学生時代を両立させる、花まるグループならではの提案です。

URL: <https://sigmatech.schoolfc.jp/>

・フリースクール事業 | 「花まるエレメンタリースクール」

花まるエレメンタリースクールは、学校に行かない選択をした子どもたちのためのフリースクールです。レスリングや将棋の日本一や数百年前の古字の博士など、尖った才能を持つ子ども多数在籍・卒業しています。基礎学力と基礎体力の部分も大切にしながら、自ら考え自ら行動に移せるような子どもたちを育てるのが目標です。子どもは環境次第で必ず変わり、成長していきます。その成長のために我々は子どもたちと一緒に考え、子どもたちと一緒に行動し、子どもたちと一緒に歩んでいきます。

URL: <https://hanamaru-eschool.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社こうゆう(花まるグループ) 広報

Email: pr@shipood.com
